

目次

道路 特集

3	グラビア 2014 ふゆトピア・フェア in 釧路		
5	巻頭言 復興インフラの長寿命化を目指して	岩城 一郎	
6	道路法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備に関する政令等	加藤 重人	
11	道路メンテナンスの高度化の推進に向けて スマートメンテナンスハイウェイ	久保 竜志	
17	緩衝型のワイヤーロープ式防護柵の開発と実用化	平澤 匡介	
22	LED 発光パネルを活用した渋滞緩和対策 ペースメーカー	岸 達比呂・鎌田 恭典・石橋 弘之	
27	多機能型排水性舗装と型押し式注意喚起舗装	藤本 大生	
33	三次元点群データを用いた新たな路面評価手法の開発	中村 博康・森石 一志・渡邊 一弘	
38	スマホで情報収集し、道路補修箇所を特定 道路の簡易点検から始めるインフラ長寿命化	村上 茂之・谷 弘幸・葛西 一良	
45	大規模施工用接着剤散布システム ボンドスプレーヤーの紹介	木下 洋一	
50	固形燃料併用型アスファルト合材製造技術の開発 アスファルト合材工場と SFC システムの併用化	榊 真司・相田 尚	
56	フォームドアスファルトを用いた中温化アスファルト混合物の性能と製造設備	徳光 克也・河村 泰博・荒尾 慶文	
61	アスファルトペーバの環境・安全対策	谷岡健一郎	
64	視程障害移動観測車の観測システムの概要と改良	國分 徹哉・金子 学・武知 洋太	
70	交流の広場 道路空間におけるサインのユニバーサルデザインの検討	池田 典弘	
76	ずいそう コミュニティの絆	羽入 昭吉	
77	ずいそう 三迷泉と小さな旅	阿部 新治	
78	JCMA 報告 ◆除雪機械展示・実演・競技会報告 2014 ふゆトピア・フェア in 釧路		
83	JCMA 報告 平成 25 年度「建設施工と建設機械シンポジウム」開催報告 (その 3) 優秀論文賞・論文賞 受賞論文紹介 優秀論文賞 (3) 分級と改良を用いたゴミ混じり津波堆積土砂の再資源化に関する試験施工 論文賞 (1) 造粒技術による災害廃棄物の復興資源化	高橋 弘・泉 信也・柴田 聡	
93	JCMA 報告 平成 25 年度建設機械施工技術検定試験結果報告	大友 信悦・須々田嘉彦・勅使河原和則	
95	JCMA 報告 平成 25 年度一般社団法人日本建設機械施工協会 研究開発助成対象研究開発決定のお知らせ	鈴木 勝	
96	部会報告 ・ISO/TC 127/SC 2/WG 9 (土工機械—安全 ISO 20474 改正) 2013 年 6 月ス トックホルム国際作業グループ会議・ISO/TC 127/SC 1/WG 5 (視界性 ISO 5006 改正) 2013 年 11 月パリ国際作業グループ会議	標準部会	
101	新工法紹介	機関誌編集委員会	107 行事一覽 (2013 年 12 月)
102	新機種紹介	機関誌編集委員会	110 編集後記 (相田・山本)
106	統 計 建設工事受注額・建設機械受注額の推移 機関誌編集委員会		

◇表紙写真説明◇

スマートメンテナンスハイウェイ構想のイメージ

写真提供：東日本高速道路㈱

インフラの老朽化やメンテナンスのあり方については、「本格的な維持・更新時代の到来」ということが前から指摘されてきた。こうした背景を受け、「スマートメンテナンスハイウェイ (SMH: Smart Maintenance Highway) 構想」という考え方、枠組みを立ち上げた。

長期的な道路インフラの安全・安心の確保に向け、ICT 技術の導入や機械化等を行い、これらが技術者と融合した総合的なメンテナンス体制の構築を目指していく。

SMH 構想においては、「インフラ管理センター(仮称)」を中心にして、スマートフォンを活用した位置情報や過去の点検データの取得、無人飛行体 (UAV) やヘリコプターによる撮影システムの導入など、その検討範囲は多岐にわたっている。これらを効果的に用いることにより、維持管理・更新の効率化や高度化が期待できる。